

HSK NPO 法人「文福」ニュース****



NO.302

冒頭の一言

夏も本番。照りつける日差しとセミの大合唱に、思わずため息をつきたくなる頃、日本ではお盆の季節がやってきます。

帰省して祖父母の家を訪ねたり、親戚や古くからの友人と集まったり、家族で旅に出るご家庭も多いでしょう。そうした思い出を重ねることもまた、お盆らしい過ごし方の一つだと思います。

けれど同時に、ご先祖様や亡くなった人を想う行事でもあります。

夏の楽しい時間のほんのひと時でいいので、感謝や想いを寄せる時間があったもいいのではないのでしょうか。

ゆき

—もくじ—

冒頭の一言 … 1	第 2 3 回 N P O 法人文福総会報告 … 2
連続学習会報告 … 3 - 5	日下さんを偲んで … 6 - 8
人生初の救急搬送 中村 薫 … 9	
7 月 1 日 「障」ちゃんニュース編集会議報告 … 1 0	
7 月 1 日 障害者部会報告 - 1 1	「まっち」32 号の原稿大募集 … 1 2
ありがとうコーナー … 1 3	ためきから一言 … 1 4

第 23 回 NPO 法人文福総会報告

去る 6 月 21 日土曜日、文福事務所にて第 23 回 NPO 法人文福総会を開催しました。

午前の部は議長選出をし、議案に沿って各部門から前年度の活動報告や、今年度の活動計画、2024 年度活動・決算報告と 2025 年度活動計画・予算案を発表し、役員改選の報告がありました。

15 分の休憩をはさみ質疑応答がありました。

採決は運営会員 25 名中、出席者 22 名（内委任状 9 名）、欠席者 3 名、過半数 13 名のところ、過半数以上の賛成を得て無事に総会を終えることが出来ました。

午後の部はヘルパーにも参加してもらって「障害者スタッフの地域生活とヘルパーとの関わりについて」と題して、障害者スタッフがプレゼンテーションを行いました。

それぞれのプレゼンテーションの内容につきましては、ヘルパーの感想も踏まえて 10 月 1 日発行号以降から順次掲載する予定です。

報告：森田



連続学習会報告

6月14日（土）サンフォルテで「大コメ騒動」のDVDを上映しました。約10名の参加がありました。

おかかたちは立ち上がった ー大コメ騒動を見てー

米騒動の歴史

大正7（1918）年夏、富山湾沿岸の漁村に生きる“おかか”たちは、高騰する米の価格に頭を悩ませていた。当時、漁村のおとたちにとって米は貴重なエネルギーで、一升飯をもって漁に出た。夏は「鍋割れ月」といわれ、漁は少なく、おとたちは北海道や樺太に出稼ぎに行き、おかかたちは米一俵（60kg）を担いで米倉から海岸まで運ぶ、辛い肉体労働で日々の家計を支えていた。

第一次大戦後の不況の中、シベリア出兵を前に投機筋が米を買い占めて米価を上げ、米屋はさらなる値上がりに期待して売り惜しんだ。米価はうなぎ上り、おかかたちの安い日銭で買える米は日増しに少なくなり、子どもたちにもひもじい思いさせるのも限界を迎えた。おかかたちは、米屋に押しかけ、米を安く売ってくれと哀願した。

それを報じた富山の新聞を見た大阪の新聞社が大袈裟に「越中女一揆」と報じて、騒動は全国へと広がっていく。一方、地元の米問屋や有力者は警察の力を使っておかかたちを弾圧、運動の中心になっているおばばを逮捕した。それをきっかけに、おかかたちは、米が北海道に移出されることが値上がりが原因だと、仕事を休み（ストライキ？）、米が運び出されるのを阻止した。

ときは大正中期、日本は農業国から工業国へと移り変わり、工場で働く労働者の数が飛躍的に増加、非農業人口が増えて都市部での米の需要が高まった。新聞が人々の動きに大きな影響を与え、労働運動の胎動期でもあった。富山から広がった運動は、大都市では焼き討ち、熊本県の炭鉱では大規模な暴動が発生し、当時の寺内内閣は総辞職した。

富山わーど

場面の多くは富山県で撮影され、なじみの景色が出てくる。そして、今は聞くことがむずかしくなった富山弁、富山・滑川・魚津などの浜言葉のオンパレードである。幸い、私たちはわかるが、県外人には外国語のように聞こえるかもしれない。「字幕ないが？」という人がいたが、難聴者のためにもあればいい。

監督は本木克英、俳優陣にも立川志の輔、西村まさ彦、室井滋、左時枝、柴田理恵をそろえるが、女性 3 人の闊達な富山弁に聞きほれた。東京出身の姑役・夏木マリは、男女の働きの違いを孫に言い聞かせ、米の積み出しを阻止しようと浜に出る女たちのしんがりを務めてピリッと画面を引き締めていた。

主人公・いとを演じるのは井上真央だが、圧巻はリーダー役、おばばの室井滋だ。鳥の巣のような白髪を振り乱し、がばっと長着を着て富山弁を乱発、気の強さはピカイチで周囲を圧倒する。いとは新聞は読めるがまだ若く、気後れしながらみんなについていったが、活動のなかで成長し、最後の場面では号令をかけるリーダーになる。こうした「リーダー論」もよかった。

その他のおかかたちの個性もおもしろく描かれていた。室井演じるおばばが釈放されて寝ている場面で、相互不信に陥っていたおかかたちだが、分断策動があったことに気づいて暴露し合う。これにより小さないざこざや不満でヒビが入っていた関係がより強い信頼に変わり、ラストシーンにフォーカスされていく。

そう、今も女たちは仲間割れを強いる攻撃にさらされている。それに屈すると、「だから女はダメなんだ」と言われて二流市民に落とし込まれ、力を発揮することができない。しかし、そうした存在だから、男社会ではじき出された心優しい男や野宿者を仲間に入れることができるということもストーリーに含まれていた。奥が深い。

今、日本社会は「令和の米騒動」の只中にある。農政の失敗と政治の無策で、私たちは、米の値上がりで主食の米が買えない。かつて、貧乏人は麦を食えと言った大臣がいたが、文字通り輸入小麦のパンやうどんを食べている。一方、銘柄米といわれる高い米を買える人たちもいる。主食に格差社会の実相を見る思いだが、皮肉にも、与党が大立ち回りで目先の辻褄を合わせるだけで、野党の動きは見えない。おかかたちのように「安く売ってほしい！」と、JA の倉庫の前で哀願すればいいのだろうか。いろいろ考えさせられた。

「連続学習会」についても意見が交わされた。映画鑑賞をした学習会の参加者 10 名、その少なさに言及する人もあった。当日が雨だったり、体調のよくない人もいたのは確かだが、少なすぎるのではないかと。テーマはどうか。今回は娯楽映画で、安楽死問題のように厳しくない。会場が遠いのであれば事務所で上映すれば会場費もいらない。最近多かったのは、河除静香さんの「ひとり芝居」で、会員以外の参加があった。今後の課題として書いておく。

以上は、最後に残った 6 人の意見交換の報告をまとめたものです。(堀江節子)

6, 14『大コメ騒動』映画感想

四十物和雄

昨今の「令和の米騒動」下、グッドタイミングの上映でした。見るのは今回で3度目ですが、ほかの人と一緒に見るのは思いがけない感想が浮かんでよいものだなあ、と改めて感じさせられました。映画の中での方言に触れることによって、小さな頃の故郷でのこと（入善出身）・雰囲気を出し、距離感が全然違うように感じられました。自分でもびっくりでした。

さて、当日言った感想を少し膨らませて。

1918年当時の米騒動と現代との違いを意識せざるを得ません。当時の社会は「人を人とも思わない」雰囲気が充満していて（映画ではそのことが「これでもか」というくらいに描かれていますね！）、見ていて腹が立ってきました。しかし「令和の米騒動」では異なった雰囲気が生まれてきている気がします。小泉進次郎新農相を先頭に「JA攻撃が目につきます。この違いは何だろう？」と考え込んでしまいます。高度資本主義社会では消費者が強い立場（「買う側」が必要と感じられないものは売れない。売れなきゃ「売る側」は生活できない。特に「モノづくりの側」が非常に弱い立場になっている）になっていることに注目せざるを得ません。「消費する側」のことばかり中心に考えると、追い詰められる人がいることに目を向ける必要がある様です。本当に「人が人として尊重される」ためには、「作る」「使う」どちらの側も等しく尊重される道とは何なのか？ということについて、もっとじっくりと考えてみよう、と思いました。

日下さんを偲んで

301号に続き、日下さんとの思い出を掲載します。

大橋 -じゃく -日史（読めない）

お疲れ様です

お疲れ様です

日下さん

例のよしのともが無くなった時は残念でした

だいたいだらだらしてましたが、新聞ちゃんとめくってましたか？

色々諸々ありました

お疲れ様でした。

在りし日の日下さん

八木 勝自

私が日下さんと知り合ったのは 1970 年代の終わり頃で、日下さんは最近では寝たきりで身体も動かせない状態だったのですが、私が知り合った頃の日下さんは写真でわかる通り、右肩で杖をついて一人で歩いていました。それが 1970 年代の後半からどんな障害者も定期的に障害者運動が盛り上がってきて、日下さんは最初は実家暮らしだったのを行ったり来たりしていて、その内、東北に行って東北と富山を一人で行ったり来たりするようになりました。

写真でわかる通り、日下さんはハンサムで東北の運動に関わっている女の子にモテて富山に一時帰られなくなってしまいました。

当時も介護人が少なく、当時は扇谷くんという、座ることが出来ない寝たきりの障害者の寝返りやご飯を食べさせる介護も日下さんがやったりしていました。たぶん半分はそういったことをしていたから無理もたまって徐々に体の障害が重くなっていった今の亡くなる前の寝たきりの状態になったのだと思います。

でも日下さんは、寝たきりになっても明るくお茶目で人を喜ばせることがおもしろかったのではないかとと思っています。

以上がとりあえずの日下さんの若い頃の報告です。（お金の使い方もかなり私から言えばわかってなく、大胆だったんです。）

今でも人をおちょくったり喜ばせることが生きがいのような人でした。

日下さんへ

大野 啓子

日下さんが亡くなったと聞いて私はびっくりしました。亡くなる 3 日前に、痰がつまって入院したと聞いたばかりでした。

日下さんが家でお酒を飲みながら食べている姿が思い浮かんで涙が出ました。会議等にもいつも出席していたし、まさか、もう会えなくなるなんて思っていなかったのが悲しいです。私は日下さん、八木さんと同じ年でまだ元気だけど、何時どうなるかわからないなあと思いました。

私は 1 人、神に召されるまで日下さんの分も頑張っていこうと思います。

人生初の救急搬送

中村 薫

5 月 6 日午前 3 時から、のたうち回るような腹痛に見舞われました。その腹痛は大きい洗濯バサミで内臓を挟まれ、洗濯バサミごとねじられている感じの痛みでした。その痛みを 8 時頃まで我慢したのですが、耐え切れずに救急車をヘルパーさんに呼んでもらいました。

60 数年間生きていて、初めて救急車のお世話になりました。

私は医療系のドラマが大好きで色んな医療系のドラマを観ています。二人係で担架に移動するところ、熱や血圧や酸素濃度や心電図を撮ったりして、受け入れ先の病院に連絡を入れたりするのが、「ドラマの中の緊急搬送場面と一緒にだなぁ。」と痛い痛いと感じながらも思っていました。

病院に着き、ストレッチャーに乗せられ、看護師さんに「お名前言えますか？ここ何所だか分かりますか？」などの質問に答えながら、「まさしくドラマと一緒にだ。」と凄く痛いくせにそんな事を思っていました。不謹慎ですが、ドラマと一緒にの場面に胸がワクワクする私でした。お腹が痛くて救急車を呼んだのに、本当に不謹慎ですよ！そんな事を思っている場合ではないのに…。私ったらバカだね(笑)

結局、私の腹痛は尿路結石でした。痛み止めの点滴を打ってもらい、それでも痛みは治まらず痛み止めの座薬を入れてもらい、先生に「石も小さい手術も必要ないし、もうすぐ自然に石はおしっこと一緒に流れていくはずだ。」と言われ、病院に着いてから 2 時間半ほどで、だいぶ痛みは治まり帰ってきました。

弟に連絡して迎えに来てもらったり、ヘルパーさん方にもものすごくお世話になりました。

「歳をとると色んな所にガタがきて、病院のお世話になる事がこれから多々あるんだろうなぁ。」と思った出来事でした。



7月1日火曜日 「障」ちゃんニュース編集会議報告

- ・ 8月1日号、編集進行中。
- ・ 日下氏の追悼記事は、2件届いている。他の障害者スタッフにも書いてもらう予定。
- ・ 総会報告、学習会報告、N氏からの原稿、冒頭の一言は届いている。
- ・ 原稿締め切りが7月10日。18日印刷。22日29日発送作業予定。今後、発送作業は午前中から行う事にする。
- ・ 今まで字体が揃っていなかったなので、統一した字体にする事になった。
- ・ 9月1日発行号
冒頭の一言、中村。ありがとうコーナー、河上。
ペン子、ザカイジョ報告、森田。
原稿締め切り8月5日。お盆休みに入るため印刷日程が決まりしだい知らせる。
- ・ 障害者スタッフのプレゼンテーション(研修)について
10月1日発行号から毎号につき一人分ずつ、当日の発表順に掲載していく。
- ・ 7月27日に HSK の総会
日時 7月27日 13時～ 場所：金沢市『ひまわり教室』
オンライン参加も可能。出欠の返事今週中。欠席の場合は委任する。

7 月 1 日障害者部会報告文

オンライン参加者・1 名 ・ 欠席者・1 名 ・ 遅刻者・1 名

- ① K 氏に^{にれはら}楡原中学校から講師の依頼があり、12 月 8 日月曜日の午後に行く事になった。障害者が歩んできた道や、障害者が感じる問題点や、ハンセン病の事を話す予定。学習会で作成した『障害者が歩んできた道』冊子を持っていく予定。
- ② N 氏にも 11 月 9 日に富山市安養坊の文化祭に描いた絵を展示して、話しもしてほしいという依頼があったので引き受けた。
- ③ 障害者部会員を増やすためのチラシ文についてだが、まだ書けていない。
- ④ 障害者部会の活動について
活動の一つとして、文福フェスティバルをして、ガレージセールとか、綿あめとか、ヨーヨーとか、地域の人達を招待して巻き込んで、私達の事を知ってもらう企画を秋ぐらいに行ってはどうか。という案に対して、今後みんなで考えていく事になった。
- ⑤ その他
- 1, 障害者部会のグループラインがあるので、皆さん読んで下さい。
 - 2, M 氏が 6 月 28 日(土)にサンフォルテフェスティバルに行ってきた。
沢山の団体の出店されていた。
 - 3, 部会に出席できない場合、オンライン参加、欠席するかは早めに知らせる。

次回の部会は 8 月 5 日(火)14 時から事務所で行う。

「まっち」32 号の原稿大募集

季刊誌「まっち」個人史・社会問題・そして人と人を結ぶことを目指し発行しています。

その「まっち」31 号テーマ『歳を経て』を発行する事ができました。

これもひとえに皆さんが原稿をお寄せ下さったおかげだと思っています。この場をお借りして本当にありがとうございました。m(__)m

さて、次号のテーマは『好きな食べ物』です。

貴方の『好きな食べ物』は何ですか？その食べ物にまつわる思い出や、『好きな食べ物』を食べると感じる想いや感情などを書いて「まっち」にお寄せ頂ければ嬉しく思います。

皆さんからのステキな原稿を編集者一同お待ちしております。

原稿の締め切りは 7 月末日で発行が 8 月末日でしたが、原稿が集まってこないため締め切り日を 1 ヶ月延ばしました。

原稿締め切り 8 月末日 発行 9 月末です。

もちろん、他のテーマや詩や俳句、川柳、短歌、イラスト(絵)等の原稿もお待ちしております。

「まっち」編集者一同



ありがとうコーナー

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

今後もよろしくお願いします。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆



もう 8 月になります。今年は、全国的に梅雨入りが早く 6 月から暑い日が続き、熱中症で病院に運ばれたというニュースを耳にします。夏本番が思いやられますね。そして、富山はまだですが、梅雨明けも早いです。6 月から 9 月半ばまで、暑いので、しっかり水分も栄養も取って熱中症にならないように気をつけて暑い夏を、元気で乗り切りたいものですね。
(アパッチ)

* 2025 年度新規会員・継続会員 *

荒戸 紗貴さま	栗島 克幸さま	大野 啓子さま	河上千鶴子さま
久保ゆかりさま	坂井由美子さま	先祖 貴代さま	中村 薫さま
福田 文恵さま	森田 知恵さま	八木 勝自さま	吉田 健太さま
清水 博史さま	京谷 昌厚さま	中山小百合さま	森 睦美さま
高林 明美さま	東 初美さま	波多 康世さま	村山 順子さま
泉 正美さま	柳川ひとみさま	加藤 政和さま	宮本 光代さま
松浦 義和さま	塚本 聡さま	掛田 博子さま	大西 貞夫さま
前田位久代さま	吉川 行唯さま	山岡 和夫さま	保坂 和哉さま
川原登喜のさま	小川 毅さま	江尻 一郎さま	山本 正子さま
伊佐良夫・伊佐誠子さま 水島 俊雄さま 佐々木量子さま			
島崎真美・敬悟さま 高寺和貴子さま 鈴木 栄さま 中島 正浩さま			
藤塚 清美さま 庄司 京子さま			

* いただきもの *

上田 孝子さま

いつも読んでくれて
ありがとうございます!!



発行人：北陸障害者定期刊行物協会 富山市今泉^{いんずく}312
編集人：特定非営利活動法人 文福

〒930-0138 富山市呉羽町 7276 番地 3

e-mail: bunpuku@ab.auone-net.jp

HP: <https://bunpuku.org/>

TEL/FAX (076) 460-0390

定 価 50円

※文福の会員の方は、会費に購読料を含んでいます。